

# 予科練 平和記念館だより

役場2階企画課内に予科練平和記念館整備推進室が発足しました。推進室では、予科練や海軍に関するお話しや写真を集めています。ご存じの人はぜひご一報ください。



## 風

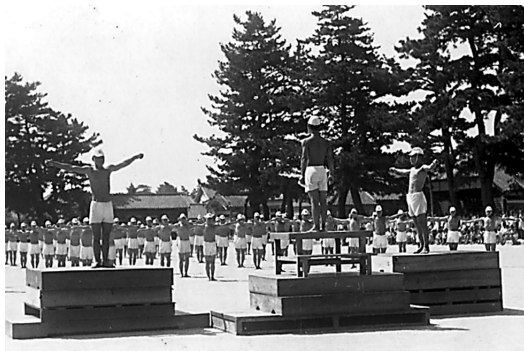
薫る五月、皆さんはいかがお過ごしでしょうか？ 田植え・五月雨（さみだれ）・ホトトギス——など、古来より和歌で一番詠まれるのは五月（陰暦。現在の六月）だそうです。歌をたしなまずとも目に鮮やかな若葉の美しさに、はっとさせられる月です。

今月号は、予科練生の体操服をご紹介します。

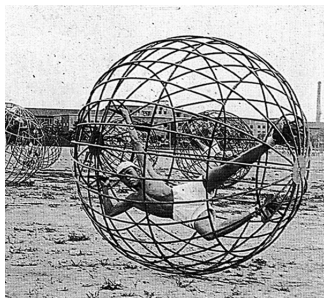
## ●大会の華 予科練体操

予科練生は、パイロットに必要な素養を身につける期間だということは先月ご紹介しましたが、飛行機に乗ると高度や気圧・重力などの関係で体や精神に負荷がかかります。それに耐えるため、また、機上では一瞬の判断ミスが命にかかわるため、いかなる状況でも冷静さを失わないよう、さまざまな方法で心身を鍛えることが行われました。

予科練生は、朝起きてから夜寝るまで、生活全般が体育といっても過言ではありませんが、授業で行われた主な科目としては、柔道、剣道、相撲、水泳、体操（徒手・器械）、短艇、球技が挙げられ



▲体操の様子（辻猛氏寄贈）



▲上空にて操転器を操る予科練生『甲飛・栄光の記録』第一巻（甲飛会全国本部編1986年）



▲体操帽子（富樫義春氏寄贈）と体操パンツ（銀田フミ氏寄贈）

ます。中でも、大勢の予科練生が一糸乱れず行う予科練体操は、デンマークのニルス・ブツクが広めた『デンマーク体操』の流れをくんでいます。これはもともと足腰を曲げて長時間仕事をする農民の姿勢を正して、健康を維持するために作られた運動で、現在のラジオ体操の元になったといわれています。

普段は使わないような筋肉も満遍なく動かすため、長時間の体操で筋肉痛になる予科練生も多く、『殺人体操』の異名で呼ばれることもあったようです。しかし、リズムカルに体を動かすことで柔軟

性が高まり、発育途中の青少年に有益と考えられたため、予科練体操は武術や器械体操を行う前の体づくりとして盛んに行われました。

さびきびと若さあふれる体操は対外的にも評判で、昭和17（1942）年7月13日、昭和天皇が霞ヶ浦・土浦海軍航空隊に行幸（みゆき）された折にも、選抜された予科練生による体操をご覧になりました。また、現在の国立競技場の前身である明治神宮外苑競技場で行われていた球技大会においても、操転機を使った体操とともに披露され『大会の華』と評されました。

操転機とは、直径2メートルほどの丸いジャングルジムのような器具で、中に人が入り重心を移動させることで前後左右に動くことができました。もともとはドイツで考案

されたフープという円形の体操器具でしたが、土航の航空要員研究所が改良し、平衡感覚を鍛えてめまいを軽減させる訓練のために取り入れられました。予科練教育の裏には、こうした研究の成果が反映されていたことも特筆すべきでしょう。

写真は予科練生が実際に使用していた体操帽と体操パンツです。体操帽は、よく小生がかぶっている紅白帽子に似ています。体操パンツは綿素材で、ウエストをひもで縛って調節できるようにになっています。いく筋もの汗を吸い、茶色く変色した今もなお、着用していた予科練生の若々しいしなやかさを伝えているようです。